

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470200938		
法人名	社会福祉法人 青山里会		
事業所名	四郷グループホーム		
所在地	三重県四日市市西日野町小溝野4014		
自己評価作成日	平成28年 7月 14日	評価結果市町提出日	平成29年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470200938-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470200938-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28 年 8 月 2 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲に緑が多く、春には桜の咲く自然と学校と住宅も近くにある環境に当グループホームはあります。また、敷地内に在宅介護支援センター・デイサービス・訪問看護ステーション・ヘルパーステーション・サテライト特養が併設されており、協力体制もあります。ケアの面では、ご利用者お一人おひとりの特徴をつかみ、その方にあったケアを行うように心がけ、笑顔を引き出せるようにしています。また、行事や外出の機会を多く持てるように努力しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一敷地内の3つの介護関係事業所が、合同で運営推進会議を開催しているため、地域の自治会や民生委員多数の出席があり、地域とは非常に良い連携が取れる環境にある。また訪問看護ステーションがあるので、看取りもすることができ家族の大きな安心に繋がっている。排泄の自立にも努力しており、事前の声掛けの工夫から、安易に紙パンツや尿とりパットを使用しないようにしているため、入居者の3分の1が自立である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりを尊重し、笑顔あふれる家」を理念とし、ご利用者の小さな変化に対しても職員同士で話し合い、情報の共有に努めている。	特に唱和するようなことはしていないが、職員全員が理念を頭において仕事をするようにした結果、利用者とのコミュニケーションも増え、笑い声も多く聞こえてくるようになった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	音楽療法を通じて、近くの施設との交流を続けており、音楽療法の開催場所も同敷地内のデイサービスに同意をいただき、デイのご利用者も参加して頂いている。	事業所周辺との組織的な連携はないが、朝の散歩時の地域の人たちとの出会いや玄関先での外気浴中に、近くを通りがかる人たちとの交流は大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験を受け入れる事で、学生さんに認知症についての理解と支援の方法を知ってもらうようにしている。また、見学にみえた方にも説明と質問に答える事で認知症を知るきっかけになるように心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの近況報告や行事・ご利用者の様子の報告を行い、会議の参加者から頂いたご質問やご意見に対し、改善すべき事は改善するように努めている。	同一敷地内の3つの事業所合同の会議であり、多数の自治会・民生委員・老人会の代表の出席がある。現在は少しでも時間をもらい、グループホームの新しい情報を報告し、認識を深めてもらう努力をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接の連携は取れてはいないが、緊急情報や研修の案内はいただいている。また、分からない事等あれば、電話にて尋ねている。	行政への連絡は法人として別窓口があり、グループホームとしては、連絡を取り合うことは少ない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような事が拘束になるかを確認したり、話をして拘束しないケアを行っている。玄関の施錠については、開錠し、ご利用者への声掛けや会話、散歩に行く等で対応している。	管理者やリーダーが中心となり、日常のケアの中で「これは拘束になるのでは？」と、職員は共通認識を持って勉強している。言葉の拘束もあり、気になることはノートに記入し共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とはどんなことか確認して、虐待のないケアを行ってやる。また、ご利用者の様子観察を行い、連絡を密にして異常の早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用しているご利用者がみえる為、制度について学び、知る機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書をお渡しし、職員が内容を読みながら説明し、疑問や不安な事がないかを確認させていただくようにしている。また、後日でもご連絡いただけたら、お答えしますとお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面接時やお電話でいただいたご意見に対して、改善するよう努力、工夫している。	電話だと話が堅くなってしまっているので、面会か受診時の顔をあわせての話し合いが多い。利用者の健康上、あるいは生活上の話が多くあり、前向きに受け止め、反映させる努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時や日常的に意見を出してもらったり、連絡帳を活用して意見や提案をもらうことを継続している。その意見や提案を責任者に報告している。	定例ミーティングになると、みんなが固まって発言が極端に少なくなるので、職員の昼食休憩時の普段の会話の形で、年間行事のことや催物時のお好み焼きやギョーザパーティ等、食べ物についての話し合いを行い、情報を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	責任者は管理者からの報告だけでなく、時々グループホームに来て、職員の話聞き把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加する。また、法人外の研修を受講した職員の研修報告書を読んだり、話を聞き、情報を得ていけるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外の研修に参加した時に知り合った同業者と話をしたり、聞いてきたケアのあり方や職場のあり方を施設で活用できることを行い、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の訪問調査時にご本人の思いや状態を把握し、職員に口頭での報告と連絡帳への記入をして情報の共有に努めている。また、入所されたら笑顔で接し、不安の解消を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学にみえた時や事前の訪問調査時にご家族の今までの生活の話を持感を持って聞き、安心して何でも話してもらえるような雰囲気になるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の担当ケアマネさんと連携を取りながら、その方にあったケアサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者にとってもう一人の家族（嫁、娘、孫）として、時には友人として接し、一緒に家事をしながら多くの事を学んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と外出や食事に出かけたり、ご家族が介助をしたりと、ご利用者の希望をかなえる為にご家族に協力を求め、共にご利用者を支えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所にある南部丘陵公園に行ったり、食材を近所のスーパーに買い物に行ったりしている。また、外出・外泊もご家族に勧めたり、面会もいつでも受けつけていると説明している。	以前近所に住んでいたという方の訪問はあるが、利用者一人ひとりの馴染みの人や場についての聞き取りや、継続支援が不十分である。	昔からの馴染みの人や場・物について思い出したりする回想法は、認知症に良いとされているので、ぜひ利用者各人について家族から聞き出す事が望まれる。家族とのコミュニケーションアップにもつながるよう期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者が手助けをしている姿を見守り、必要時には職員が介入しつつ、ご利用者同士が助け合いながら穏やかに生活されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	音楽療法やクラフトで行き来する時や近くに行った時に様子を伺うように留意している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所されるまでの生活や習慣等を把握し、ご家族と共に居室などの生活環境を整えたり、信頼される馴染みの関係になる事で、希望や意向を言ってもらえるようにしている。	1:1の風呂もポット話の出る場でもあるが、天気の良い日の玄関先の外気浴は、気分が開放されるのか、昔のことや一人ひとりの希望や意向を聞き出す良い場になっている。この時のある利用者からの言葉により、朝食に時間差を設けた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご家族にご利用者の生活歴や習慣を聞くようにしている。事前調査時には担当のケアマネさんやサービス提供している職員からも話を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の体調や生活の様子は個人記録に記録し、毎朝出勤者は業務に入る前に記録を読み、気になったことについて話し合いをして、状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時にご利用者の希望やご家族の意向を聞き、他の職員の情報も得ながら、ご本人本意のケアプランになるようにしている。モニタリングは3ヶ月ごとにして、プランの見直しや検討をしている。	利用者担当職員が、利用者・家族の意見や受診情報・個人記録などからプラン作りをし、職員全員で検討、3ヶ月ごとにモニタリングし、半年に1回の見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や気づき等を個人記録に記入し、職員が読んで気になった事(ケアの仕方や対応)について話し合い、別の方法を試したり、プランの見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急に体調を崩したご利用者の受診の対応やご家族での対応が難しい方の買い物の付き添い、必要物品の購入の代行を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同敷地内のデイサービスで開催される催しに参加させてもらったり、サテライト特養の食堂で開催されるクラフトに参加し、楽しんでみえる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医にご家族と受診してもらっている。また、ご家族の理解を得られた時はかかりつけ医と直接話をして、適切な医療を受けられるようにしている。	入居者全員が従前のかかりつけ医である。受診は家族の対応であり、受診時の利用者の容態を詳しく家族に伝えている。緊急時は同一法人内の医療機関を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内にある訪問看護ステーション、又はデイサービスやサテライト特養のナースに相談にのってもらっている。また、ご利用者の急変時には看てもらい適切な指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、ご家族や病院関係者と連絡を取り合い関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、ご本人の意向を聞き、可能な範囲であれば住み慣れたグループホームで過ごしていただけの説明をし、受診時の職員の付き添い等協力をしている。また、往診医や訪問看護と連携を取り、対応が困難になってきた時は介護施設等の紹介を行っている。	一昨年看取りを経験し、現在見取り体制の方が一名みえ、望まれるなら出来る範囲でと、家族の同意と協力を得ている。また同一法人内に特養もあり、併行して申し込みをする気配りもしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修に参加して学んでいる。また、手当での対応で疑問等ある時は訪問看護ステーションのナースに確認したり、教えてもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同敷地内の施設との連携の確認を含めての通報訓練や避難訓練をしている。	同一敷地内の事業所との連携を含め、事業所内での訓練はしているが、昨年の懸案であった消防署指導の下での訓練が未実施である。	万一の場合どこに避難するか、その経路や方法は利用者の立場での確認が必要である。運営推進会議で協力を呼びかけ、専門家である消防署の指導を受けることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「一人ひとりを尊重する」という理念を持って、人生の先輩であるとの敬意で接し、声かけを行っている。	トイレ誘導の声掛けは出来るだけ小さくし、周りに聞こえないよう気配りしているし、居室は利用者個人の部屋であり、室内に入るときの声掛けは注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしい過ごし方が出来るように、自己決定してもらえるような声かけをしている。また、ご利用者に寄り添って思いや希望をくみ取るようにしてる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	音楽療法やアクティビティ等にお誘いはするが、ご利用者の意思を尊重して、好きなように生活してもらえるように声かけしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来ない方には整容に気を付け、服が汚れていたら着替えてもらうように声かけをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の食べたいものを聞いて買い物をしたり、好き嫌いのある方には別の食材を用いて対応している。また、体調を考慮し、量の加減を工夫している。また、調理も一緒にしてもらったりしている。	その日の冷蔵庫にあるものを確認し、利用者に「これで何作る？」「これしかないけど、何がいいか？」等と利用者とは話しながら調理をしている。盛り付け・配膳・片付けと、利用者の出番もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は、入浴後にポカリスエットを飲んでもらったり、外気浴中にジュースを飲んでもらったりしている。また、食事摂取量が少ない方には食べられるもの、好きなものを食べてもらったり、栄養補助食品を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には歯磨きやうがいを勧める声かけをし、その方に応じて見守りや声かけ、一部介助を行っている。また、義歯の方には就寝時に洗浄剤使用での洗浄の声かけ、または介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄機能の低下を防ぐように職員間で話し合いをしながら、身体機能が低下してきても安易に紙パンツや尿とりパットを使用しないよう、また使用枚数が増えないようにトイレへの声かけを行っている。	トイレパターンをしっかりと確認し、安易に紙パンツやパットを使用しないよう、トイレへの声かけを徹底している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防になるよう、野菜の多い献立になるようにしたり、乳酸菌飲料を飲んでもらったりしている。また、水分摂取量にも注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を好まれない方には声かけの時間をおいたり、言葉かけを工夫したり、声かけをする職員が交代したりと工夫するようにしている。	2日に1回、午後入浴が基本であるが、「風呂」の言葉だけで拒否される方もみえ、職員はあの手この手で、楽しく入浴してもらうように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝を好まれる方、就寝時間を決めていたり、眠くなったら寝る方等自由にしてもらっている。また、気持ちよく休んでもらえるようにエアコンの温度に気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人ファイルに綴じ、いつでも見れるようにしている。また、処方変更時は業務日誌や連絡帳への記入や申し送りをして職員の把握に努めている。そして、服用時の体調の変化に注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しや洗濯物たたみ、ゴミ捨て、手すり拭き等個々に合った役割を持ってもらっている。また、作品作り、パズル、風船バレー等楽しみかたも個々に望まれるものを行ってもらうように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関先での外気浴を行っている。また、近くを散歩してもらう時もある。	天気の良い日は、事業所周辺の散歩や同一敷地内にあるサテライト特養の方へ散歩がてらゴミ捨てに行っている。桜やコスモス等の季節の花見や買い物にショッピングセンターに出掛けたり、夏は盆踊り見物もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はグループホームではしておらず、ご家族と相談してご本人管理で持ってみえる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要求があれば、かけてもらっている。また、手紙も要望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた作品をご利用者と作り、飾って季節感を出すようにしたり、温度に気を付けている。	居間は対面式のキッチンのある少し大きめの食堂という感じで、9人が1台のテレビを囲んで座っている。テレビも見えるし利用者同士の顔も見える配置なので、1日のほとんどをここで過ごし、利用者同士の会話も多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	アクティビティルームで一人でゆったり見たいテレビを見て過ごされる方、ご利用者3～4人と時に職員も入って洗濯物をたたんだりしながら昔話に花を咲かせてみえる。また、録画した歌番組を見て楽しんでみえる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者やご家族の希望があれば、家具や家電製品等を持ち込めるようになっている。また、今まで使用されていた家具等を持ってきてもらい安心して過ごしてもらえる空間作りに努めている。	部屋には洗面台と大きなクローゼットがあるので、テレビや机・衣装ケースなど持ち込まれているが、比較的すっきりした部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、居室はわかりやすくなるように表示している。		